

# 広島県経済の動向

令和5年3月15日  
商工労働局

# 目 次

I	経済動向の概要	1
1	国内経済の動向	
2	広島県経済の動向	
II	県内主要製造業の生産動向	3
1	鉄鋼	
2	自動車	
3	造船	
4	一般機械	
5	電気機械	
III	中小企業の動向	5
1	概況	
2	景況感・景況感の変化	
3	前月から変化のあった主な業種	
IV	企業倒産状況	7
1	概況	
2	業種別	
3	原因別	
4	今後の見通し	
V	最近の雇用失業情勢	8
1	県内の有効求人・求職の動向	
2	県内の新規求人・求職の動向	
3	県内の人員整理の状況	
4	完全失業率の状況	

(注)「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

# I 経済動向の概要

## 1 国内経済の動向

### (1) 概要

指 標	R4年	R5年	
	12月	1月	2月
基調判断	景気は、緩やかに持ち直している	景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	
輸出	おおむね横ばいとなっている	このところ弱含んでいる	
生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる		
設備投資	持ち直している		
雇用情勢	持ち直している		
個人消費	緩やかに持ち直している		
住宅建設	底堅い動きとなっている		
企業収益	一部に弱さがみられるものの、総じてみれば改善している		

### (2) 先行き

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」(令和5年2月21日公表)】

## 2 広島県経済の動向

### (1) 概要

指 標	R4年	R5年	
	12月	1月	2月
基調判断	緩やかに持ち直している		
輸出	供給制約の影響が和らぐもとで、 持ち直している	供給制約の影響が和らぐもとで、 持ち直し基調にある	
生産	供給制約の影響が和らぐもとで、 持ち直している	供給制約の影響が和らぐもとで、 持ち直し基調にある	
設備投資	緩やかに持ち直している		
雇用情勢	全体として緩やかに改善している		
個人消費	持ち直しつつある		
住宅投資	貸家・分譲を中心に持ち直して いる	横ばい圏内の動きとなっている	

### (2) 県内の経済の先行き

先行きの景気は、徐々に改善に向かうことが期待されるが、物価動向や供給制約、海外経済の動向などが県内の経済金融情勢に与える影響を引き続き注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和5年3月6日公表）】

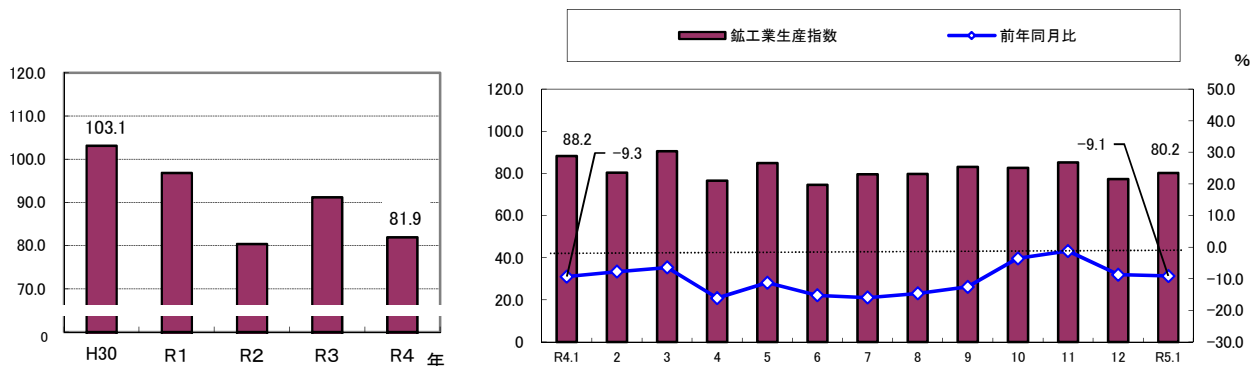
## II 県内主要製造業の生産動向

### 1 鉄鋼(令和5年1月)

1月の鉱工業生産指数(鉄鋼業, 原指数, 速報値, 平成27年=100)は80.2で, 前年同月比で9.1%減少となっている。

鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】

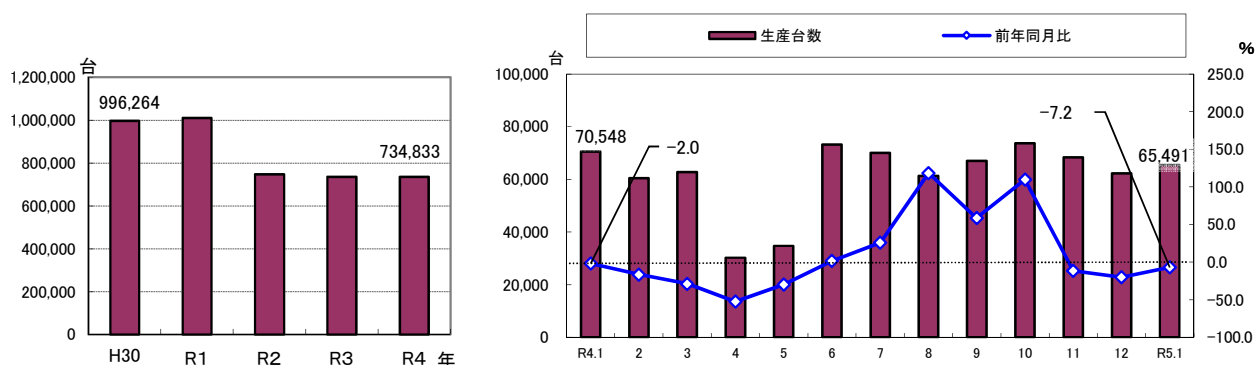


### 2 自動車(令和5年1月)

1月の国内生産台数は65,491台で, 前年同月比で7.2%減少となっている。

自動車生産台数(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【マツダ(株)】

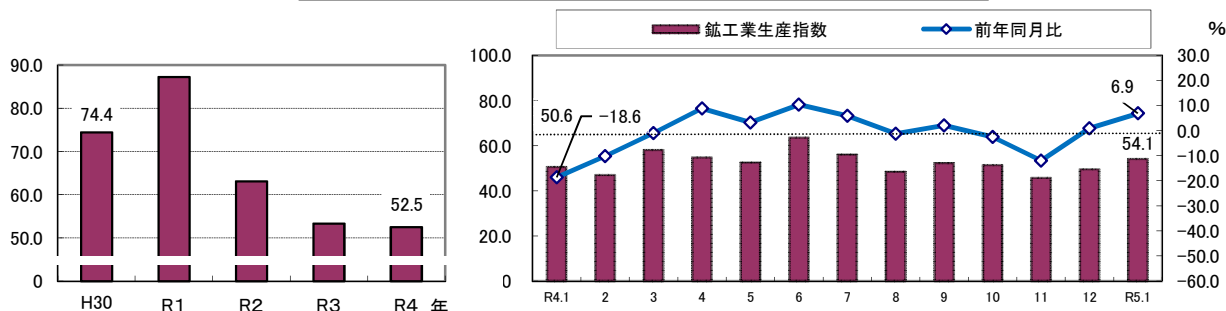


### 3 造船(令和5年1月)

1月の鉱工業生産指数(造船部門, 原指数, 速報値, 平成27年=100)は54.1で, 前年同月比で6.9%増加となっている。

鉱工業生産指数(造船部門)(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】

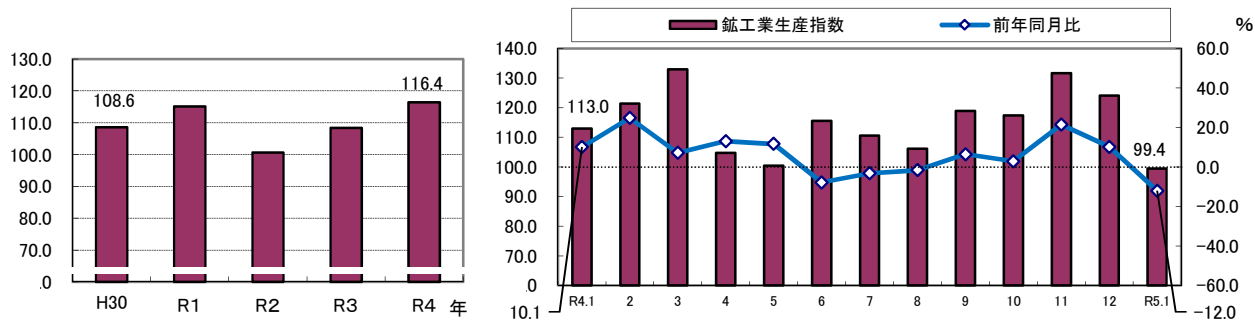


#### 4 一般機械(令和5年1月)

1月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)), 原指数, 速報値, 平成27年=100)は99.4で, 前年同月比で12.0%減少となっている。

鉱工業生産指数(一般機械(総合))(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】

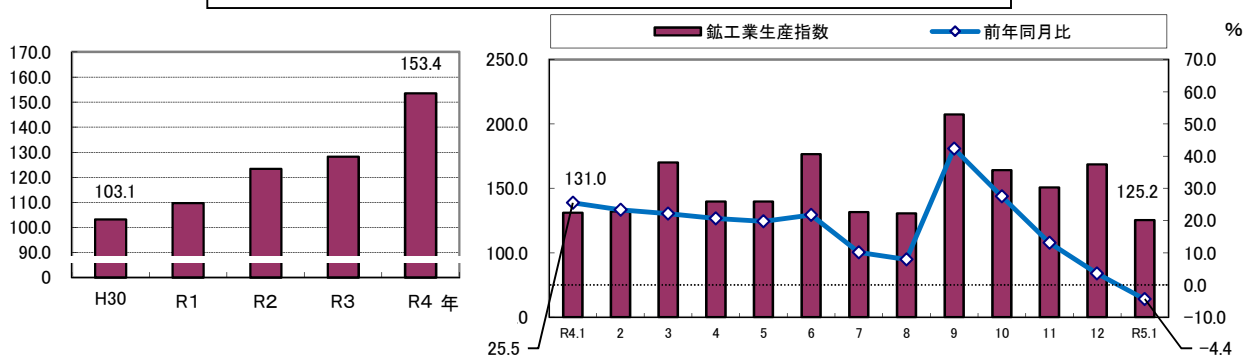


#### 5 電気機械(令和5年1月)

1月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)), 原指数, 速報値, 平成27年=100)は125.2で, 前年同月比で4.4%減少となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】



### Ⅲ 中小企業の動向(令和5年1月)

【広島県中小企業団体中央会（令和5年2月15日時点）】

#### 1 概況

原材料等のコスト上昇分に対して十分な価格転嫁を行うことが出来ず収益面に大きな影響を受けている様子が窺える中で、引き続き国際情勢による影響を懸念する声や賃上げ政策への対応を不安視する声が挙がっている。

自動車関連業種では、国内自動車販売台数は前年同月比+16.0%と5ヶ月連続で増加。マツダ車は+24.1%となった。

木材業界では、全国の令和5年1月の新設住宅着工戸数は63,604戸で、前年同月比+6.6%。広島県内の着工戸数は1,350戸で、前年同月比▲5.1%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「1月の生産・販売状況について（速報）」に基づく

※木材業界に関する記載は1月分のデータを掲載

#### 2 景況感・景況感の変化

業種	12月の景況感	1月の景況感
食料品	やや悪い	やや悪い
繊維・衣服	やや悪い	やや悪い
木材	普通	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	やや悪い	やや悪い
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	普通	普通
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼(鋳物)	普通	普通
金属製品	普通	普通

業種	12月の景況感	1月の景況感
一般機械器具	普通	普通
電気機械器具	やや好況	やや好況
自動車部品	普通	普通
造船	やや悪い	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
内航海運	やや悪い	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

(単位：業種)

景況感	12月	1月	増減
好況	0	0	0
やや好況	1	1	0
普通	7	7	0
やや悪い	11	11	0
悪い	1	1	0

### 3 前月(12月)から変化のあった主な業種

業種	12月の景況感	1月の景況感	変化の理由・状況
木材	普通	やや悪い	<p>・木材価格は落ち着きが見られ始めているが、その他の資材の高騰が住宅価格を押し上げており、特に持家の新規受注が進んでいないとみられる。取り扱う物件の種別、在庫状況で事業者ごとにばらつきはあるが、プレカット工場では今後の稼働率を不安視する声もある。物価高、為替状況、金利動向など社会状況を含め今後の需給に注視する必要がある。</p> <p>【広島県木材協同組合連合会】</p>
造船	やや悪い	普通	<p>・県内、2500総トン以上の令和4年12月の船舶建造許可実績は1隻、4,530総トンであった。(前月5隻418,750総トン。前年同月2隻78,100総トン)なお、内訳は輸出船が1隻で、油槽船であった。</p> <p>【中国地区造船協議会】</p>



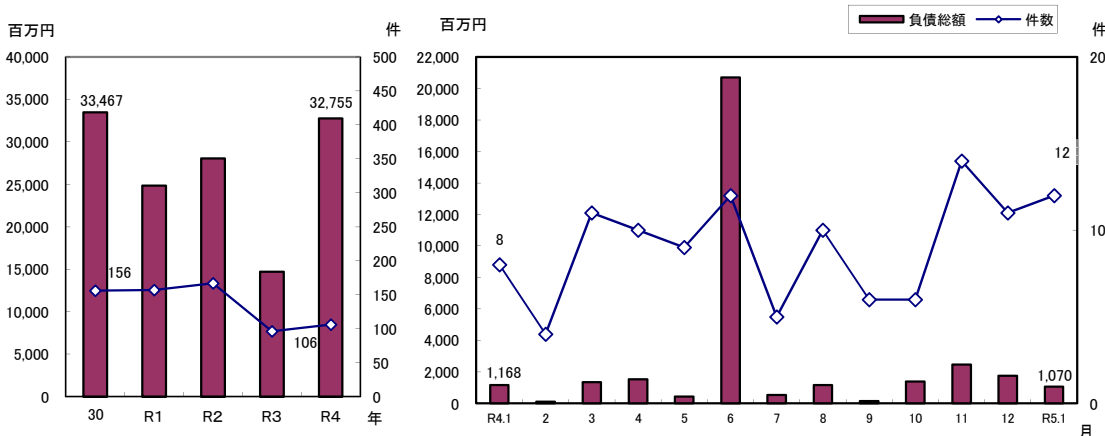
## IV 企業倒産状況(令和5年1月)

### 1 概況

- ・負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が12件、総額10億7,000万円であった。
- ・前月比で件数は1件増加し、負債総額は6億8,900万円減少した。
- ・前年同月比では、件数は4件増加し、負債総額は9,800万円減少した。
- ・大型倒産(負債総額10億円以上)の発生はなかった。

区 分	令和4年11月	令和4年12月	令和5年1月
件 数 (前年同月比)	14件 (250.0%増)	11件 (120.0%増)	12件 (50.0%増)
負債総額 (前年同月比)	2,457百万円 (1098.5%増)	1,759百万円 (25.6%増)	1,070百万円 (8.39%減)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別、月別・前年同月比)



### 2 業種別

件数は、卸・小売・飲食業が5件、建設業が4件、製造業、サービス業、その他が各1件となった。

負債総額では、製造業、卸・小売・飲食業、建設業、その他、サービス業の順となった。

### 3 原因別

原因別では、販売不振が10件、シワ寄せが2件であった。

### 4 今後の見通し

令和5年1月度の倒産件数は12件と前年同月比3ヵ月連続の増加となったが、令和2年5月以降33ヵ月連続で20件以下の低水準となっている。ただ、2022年10月以降では月間負債総額が4ヵ月連続で10億円を超え、同年11月以降では月間倒産件数が3ヵ月連続で10件を超えるなど徐々に倒産の増加が見受けられる。

業歴別倒産状況では業歴30年以上が1件、20年以上30年未満が2件、10年以上20年未満が6件と業歴10年以上の倒産が全体の75.0%を占め、前月12月度では業歴10年以上の倒産が全体の81.8%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が10件で最多で、既往のシワ寄せ、売掛回収難を合計した不況型倒産は12件で全体の100.0%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は1月度12件中9件発生し、これまでの累計は110件(負債総額1,000万円以上)となり、倒産に占める新型コロナウイルス関連倒産の割合は高まりつつある。

長引くコロナ禍の中で徐々に支援策の減額や打ち切りが始まり、倒産件数は秋頃から増加率を拡大し、倒産は底打ちから反転増勢への流れが顕著になってきた。今後としては、返済が本格化するゼロ・ゼロ融資と新たな資金調達に注目される。ゼロ・ゼロ融資は令和5年4月以降は利子補給も順次終了し、企業の返済負担が増大する。最長5年間の元金据置期間はあるが、夏には返済開始がピークを迎えるとみられる。

こうした事態に中小企業庁は1月10日、新たな借換保証制度(コロナ借換保証)を開始した。すでにウクライナ情勢や円安に対応した借換保証を実施していた自治体も一部ではあったが、「新たな資金(真水)調達は難しく、実態は返済の先送り」という指摘もある。ゼロ・ゼロ融資の副作用として過剰債務を抱えた中小企業は多く、経済活動が正常化するなかで企業の資金支援は従来の枠にとらわれない、合わせ技的な柔軟な方策も必要だろう。

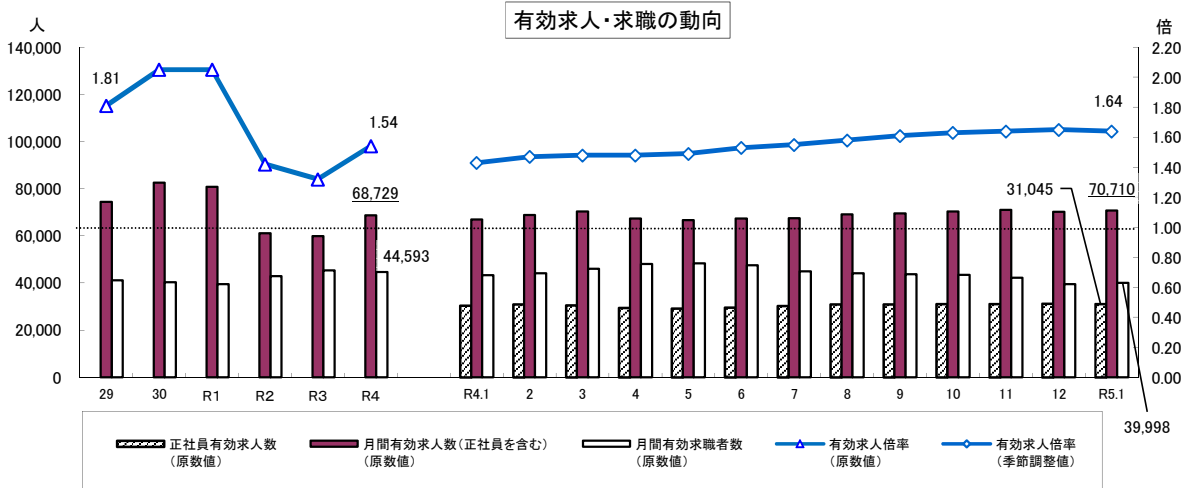
【(株)東京商工リサーチ(2月9日時点)】

# V 最近の雇用失業情勢(令和5年1月)

## 1 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和4年11月	令和4年12月	令和5年1月
有効求人倍率<季節調整値> (前月比)	1.64倍 (+0.01ポイント)	1.65倍 (+0.03ポイント)	1.64倍 (▲0.01ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.25倍 (+0.12ポイント)	1.33倍 (+0.15ポイント)	1.29倍 (+0.12ポイント)

【広島労働局】



(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数(派遣労働者や契約社員を希望する者も含む)で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

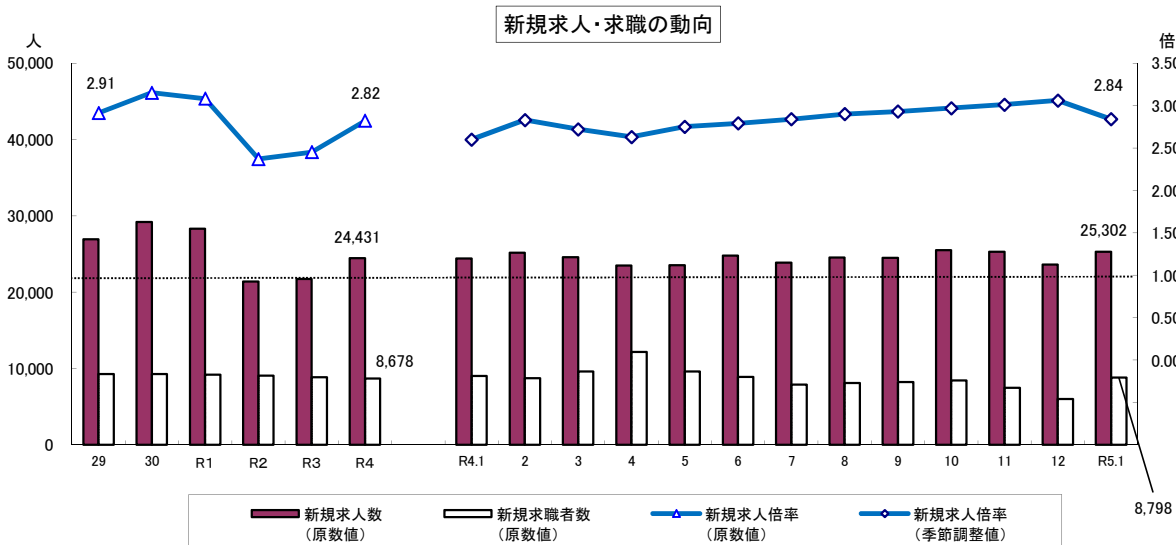
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

(注3) 令和4年12月以前の季節調整値は改訂されている。(令和5年1月分公表時改訂)

## 2 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和4年11月	令和4年12月	令和5年1月
新規求人倍率<季節調整値> (前月比)	3.01倍 (+0.04ポイント)	3.06倍 (+0.05ポイント)	2.84倍 (▲0.22ポイント)

【広島労働局】

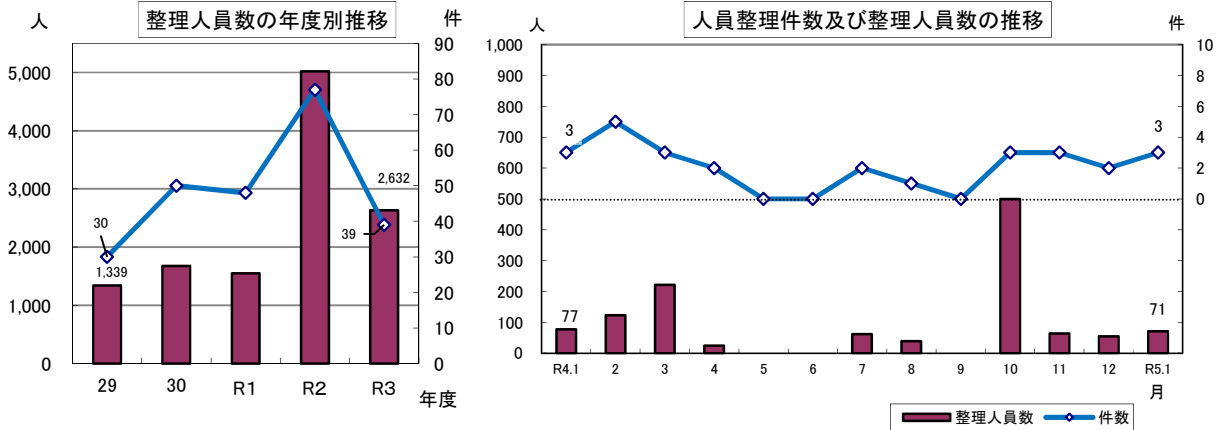


(注) 令和4年12月以前の季節調整値は改訂されている。(令和5年1月分公表時改訂)

### 3 県内の人員整理の状況(整理人員10人以上)

区 分	令和4年11月	令和4年12月	令和5年1月
件数 (前年同月比)	3件 (▲ 3件)	2件 (▲ 1件)	3件 (±0件)
整理人員 (前年同月比)	64人 (▲ 248人)	54人 (▲ 142人)	71人 (▲ 6人)

【広島労働局】



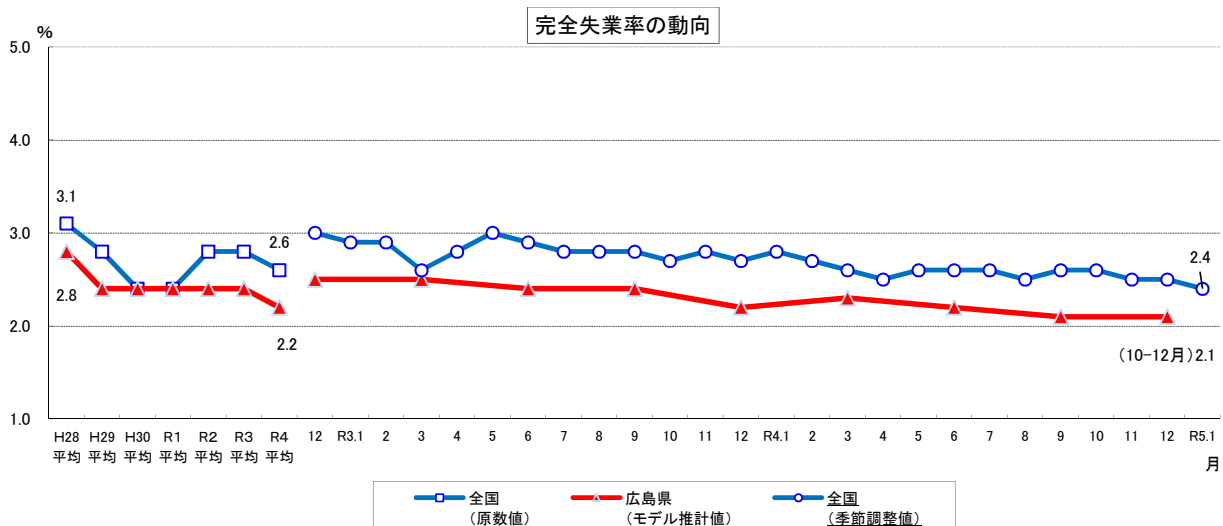
### 4 完全失業率の状況

区 分	令和4年11月	令和4年12月	令和5年1月
全国完全失業者数 (前年同月比)	165万人 (▲18万人)	158万人 (▲15万人)	164万人 (▲21万人)
全国完全失業率(季節調整値) (前月比)	2.5% (▲0.1ポイント)	2.5% (±0ポイント)	2.4% (▲0.1ポイント)

区 分	令和4年		
	4~6月平均	7~9月平均	10~12月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.2% (▲0.2ポイント)	2.1% (▲0.3ポイント)	2.1% (▲0.1ポイント)

【総務省統計局】



※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1~3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。